

## 2024年度「経済学史」第1回ミニットペーパー

2024.10.11

・厚生経済学における、基数的効用と序数的効用についてのお話ですが、授業では、「基数的効用よりも序数的効用の方が正しい」という話でした。(インターネット記事でもこの文脈で書かれていることが多いです)しかし、ゲーム理論や期待効用理論などでは基数的効用が用いられており、現代の経済学ではむしろ、基数的効用の考え方の方が支配的であるように感じます。小田中先生は、これについてどうお考えでしょうか...?

・革命と聞くと労働者の比較的暴力的な運動である印象を受けるが、メカニズムは経済学的な分配理論である点が興味深かった。

・本日の授業を聞いて感じたことである。また、ピグーの理論を聞いての反論である。ピグーの理論では個人の所得を得るための期待値が考慮されていないと感じた。人が所得を得るための能力と努力の二つについては、個人間の差異が生まれる。これを考慮せず一律に分配を謳うピグーの理論は確かに無理があると感じる。またこれは、個人間で効用曲線が変化するという点で回収されており、ロビンズの論の展開に一定の納得感があった。

・カルドアの補償原理に関してなのですが、政策によってAの利益 $>$ Aへの課税、Bの損失 $<$ Bへの補助となるのであれば、政府としては赤字なのではないかと思いました。

・今回のクールでの授業では様々な分配理論について学ぶことができました。経済学的観点と公正さの2つの観点から分配の正当性を考える視点が新しくなりました。少しでも理想に近い分配理論をさがしていけるといいと思います。

・分配について詳しく考えたことがなかったため、深く考える契機となった。

・効用に関しての説明などがわかりやすかったです。

・分配の理論が人格などの人間的価値から経済学的な体系に基づいた理論に変化してきたことが分かった。個人的には、分配を考えるうえで、限界効用逓減の法則が重要だと感じた。この法則によって、個人の効用が数値化できようができませんが、過剰な富の集中が社会全体の効用を極大化できないということが言えるからである。